

同志社大学テュービンゲン EUキャンパスでの学び

2017年、ドイツのテュービンゲン大学内に、同志社大学で初の海外キャンパスとなる「同志社大学テュービンゲンEUキャンパス（以下EUキャンパス）」が開設されました。EUキャンパスへの留学プログラムに参加した学生たちと、支援や授業を担う教員たちとの座談を通して、海外で学ぶことの意義を考えます。

EUキャンパス支援室長
グローバル地域
文化学部教授
穂山洋子

専門分野はスイス近現代史。2024年からEUキャンパス支援室長を兼務

政策学部・
大学院総合政策科学研究科
教授

岡本由美子

専門分野は国際開発、国際経済。大学院「サステイナビリティ共創プログラム—SDGsとジェンダー」のプログラムコーディネーター

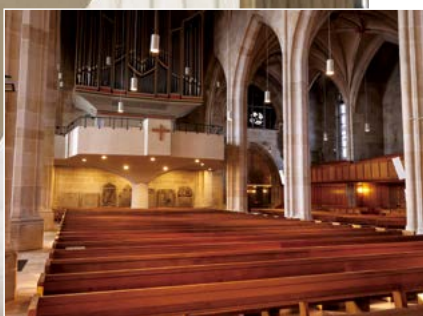
グローバル地域
文化学部3年次生
門田風雅

2024年「ヨーロッパ・スタディーズEUキャンパスプログラム」に参加

文学部3年次生
長谷川真子

2024年「ドイツ語・異文化理解EUキャンパスプログラム」に参加

UNIVERSITÄT TÜBINGEN



——EUキャンパスが置かれているテュービンゲン大学について教えてください。

穂山洋子教授(以下穂山) テュービンゲン大学は、1477年に創立されたドイツでも指折りの歴史を誇る大学です。同志社大学とは1990年に学生交換協定を締結して以来、教育・研究分野で豊かな交流を重ねています。さらなる協力・連携強化に向けて、2017年にEUキャンパスが開設されました。

——EUキャンパスでは、どのような留学プログラムを実施しているのですか。

穂山 春学期と秋学期の2つのプログラムがあり、それぞれ約15名の学生を5カ月間派遣しています。春学期の「ドイツ語・異文化理解EUキャンパスプログラム」は、ドイツ語を学びながらドイツやEUの文化や価値観について理解を深めることを目的としており、秋学期の「ヨーロッパ・スタディーズEUキャンパスプログラム」では、人権、政治、サステナビリティなど複合領域的な観点から、ヨーロッパの諸問題について英語で学びます。

岡本由美子教授(以下岡本) 同志社大学の教員が行う授業もありますが、どちらのプログラムも主にテュービンゲン大学の教員が授業を担当します。例年、幅広い学部から学生が参加を希望し、プログラム参加者同士でも交流を深めています。

——EUキャンパスプログラムに参加した理由を聞かせてください。

長谷川真子さん(以下長谷川) EUキャンパスへの留学プログラムがあることは入学前から知っていて、「絶対に挑戦したい」と思っていました。私は文学部で文化史を専攻しているので、ドイツ語の習得だけではなく、

ドイツを中心にヨーロッパの文化や歴史を学べる点に魅力を感じて、春のプログラムに参加しました。

門田風雅さん(以下門田) 僕はグローバル地域文化学部でアジア・太平洋コースに所属しています。留学が必修単位になっており、ヨーロッパを知ることが、より深くアジアを理解する助けになると考えて、秋のプログラムに参加しました。同志社にはさまざまな留学制度がありますが、学部での学びとリンクさせやすいという点で、EUキャンパスプログラムが最も自分に合っていると感じました。

——現地ではどのような学びを経験して、何を感じましたか。

長谷川 世界各国から来た留学生たちと一緒に、ドイツ語を集中的に学びました。留学前にも第二外国語としてドイツ語を履修していましたが、EUキャンパスプログラムでは教員や学生とのやり取りもすべてドイツ語で行うので、効率的にドイツ語の運用能力を高められたと感じています。実際に滞在期間中には日常会話レベルのドイツ語を話せるようになりました。

門田 多国籍の学生たちと議論することで、さまざまな視点や考え方に触れグローバルな感覚が養われました。また、授業に参加する姿勢にも大きな違いを感じました。日本では講義を聞いてコメントペーパーを提出するのが一般的ですが、海外ではディスカッションなどアクティブな授業スタイルが中心で、自分の意見を積極的に発信することが求められます。実はプログラムがスタートしたばかりの頃、日本人学生たちはそんな学びのスタイルに慣れずにいたのですが、現地で僕たちをサポートしてくれる駐在スタッ



フの方と改善のための話し合いを行い、その後は授業に主体的に取り組めるようになりました。

フィールドトリップで ドイツ各地を訪問

岡本 EUキャンパスプログラムでは、「フィールドトリップ」でドイツ各地を訪れたと思います。印象に残っている訪問先はありますか。

長谷川 フランスとドイツの間で何度も領土が入れ替わってきたアルザス地方など、教科書に載っている場所を自分の目で確認できたことが思い出深いです。フィールドトリップには事前学習と振り返りの授業があり、理解が深まりやすかったです。また、個人の旅行になりますが、1年次生の頃からナチスの戦争犯罪について関心を持って学んでいたので、ニュルンベルク裁判記念館を訪問した時には「研究生活のスタートラインに立てた」と感じました。

門田 人権に関する授業でストラスブールにある欧州議会を訪問して、会議を傍聴したことが印象に残っています。ヨーロッパ政治の授業ではベル

リンの壁や連邦議会議事堂も見学しました。

穂山 門田さんはプライベートな時間にも、アウシュビッツ強制収容所を訪問したそうですね。現地から「事前に学んでおくべきことはありますか」と連絡をしてくれましたが、どのような学びが得られましたか？

門田 アウシュビッツには高校生の頃から関心を持っていて、留学中に必ず人権蹂躪の歴史を学びたいと思っていました。実際にアウシュビッツとザクセンハウゼンの強制収容所で毒ガス室などを見学したのですが、人権問題や歴史修正主義に関する考え方など、穂山先生の歴史学の授業で学んだ内容を自分の目で確かめることができました。

穂山 座学で学んだ知識を自分の目で確認することで、より理解が深まりますよね。帰国後に「授業で紹介されたモニュメントを見てきました」「先生の言葉の意味が理解できました」と報告に来る学生もいて、それぞれが主体的に学び、新たな気づきを得ていることを知ると嬉しくなります。

——グローバル化が進む中で、ドイツやヨーロッパで学ぶ意義はどういったところにありますか。

岡本 ドイツはEUの中心メンバーであり、国際政治経済や外交において重要な役割を担っています。私が現在専門とするサステナビリティの分野でも、EUが世界をリードして基準を作っています。文化や社会の多様性が広く受け入れられているヨーロッパに身を置くことで、身近な問題をグローバルな課題として捉えるきっかけになるの

ではないでしょうか。

穂山 ヨーロッパはEUという大きな組織として「連帯」を掲げています。互いの違いを認め合って、同じ方向に進んでいく「共生」を学ぶ上で、ヨーロッパは最適な地域だと思います。多文化が共生する環境に身を置き、異なる価値観に触れることは、日本を見つめ直して、新しい自分を発見するきっかけにもなります。

多様な価値観に触れ 新しい自分に出会う

——現地ではチュービンゲン大学の学生寮で生活しますが、日常を通じた気づきや学びはありましたか。

門田 学生寮ではドイツ人だけではなく、さまざまな国からの留学生と共同生活をしました。同じフロアには日本人がいないので、コミュニケーションは英語が中心。一緒に食事を作ったり、皆で集まって会話をしたり、寮生活を通して文化の違いを体験することができました。

長谷川 寮生活は一人部屋で快適に過ごせました。ただ、キッチンやバスルームはフロアメイトと共同で、汚れていても誰も掃除をしようとしないうちに驚きました(笑)。さまざまな場面で生活習慣の違いを感じましたが、特に衛生面では日本の素晴らしさ、快適さを再確認しました。海外で暮らすことで気づけた日本の良さですね。

門田 僕らのフロアは比較的規律が保たれていて、スマホのアプリで連絡を取り合い、トイレトペーパーやキッチンの共有物は皆でお金を出し合って購入していました。自炊のために食



MY MEMORIES

チュービンゲンで行われた
カヌーレースのお祭り



フィールドトリップではフランス・ストラスブールにある欧州議会にも訪問



チュービンゲンのあるシュヴァーベン地方の郷土料理に舌鼓

料品店も利用しましたが、ペットボトル1本につき0.25ユーロのデポジットがかかるなど、ドイツでは環境保護への取り組みが社会に浸透していると感じました。

岡本 現地ではチュービンゲン大学の学生が、バディとしてさまざまなサポートをしてくれたと思います。彼らとの交流はいかがでしたか？

長谷川 私のバディは日本への留学を予定している日本学科の女子学生だったので、すぐに打ち解けることができ、とても親切にしてくれました。帰国後も手紙のやり取りを続けていて、春に同志社大学で再会することがとても楽しみです。

門田 僕のバディは同じ学生寮に住んでいたの、イベントに参加したり、外食に出かけたり、授業以外の場面でも多くの時間を一緒に過ごしました。フランクフルトにある実家にも招待され、バディの家族とも交流を楽しみました。プログラム最後の日は、思い出の写真をフォトブックにして贈り、感謝の気持ちを伝えました。

穂山 お二人とも、バディと素晴らしい関係を築けたようですね。EUキャンパスのあるチュービンゲンは、豊かな自然に囲まれ、中世の面影を色濃く残す美しい街で、人口約9万4000人の3分の1ほどを学生と大学関係者が占めています。世界各国からの留学生も数多く暮らしており、多様性にあふれた環境でグローバルな感覚を養えることも魅力です。

岡本 バディ制度はもちろん、現地の駐在スタッフの親身なサポートを得ながら、落ち着いて自らの学びに集中することも安心感につながっています。さらに手厚い奨学金制度もあって、学生たちにとって非常に魅力的なプログラムになっています。

百聞は一見にしかず

——EUキャンパスプログラムに参加して、得られたものは何ですか。

長谷川 人との出会いに恵まれ、異文化への理解や多文化的な視点を磨く

MY MEMORIES



感謝の気持ちを込めてバディに贈ったアルバムには、留学生活の思い出がいっぱい



宗教の授業でフィールドワークへ



移民の方をゲストスピーカーに迎えた人権の授業

という部分で多くの気づきを得られました。一方で、授業や日常会話で「あなたの国はどうか？」という質問に対し、自信を持って答えられない場面もあり、異文化を理解するには、もっと日本のことも学ぶ必要があると痛感させられました。自分に必要なことは何なのか、EUキャンパスプログラムが自己を見つめ直すきっかけを与えてくれたと思っています。

門田 国際社会の諸問題について、国によって多様な意見が存在することを肌感覚で知ることができました。授業での意見交換だけではなく、日常生活での語り合いを通して多様な価値観に触れ、視野を広げられたことが一番の収穫です。

穂山 長谷川さんは文化史を、門田さんはアジア太平洋地域を専門に学んでいます。EUキャンパスプログラムで得たものを、今後の研究活動にどう生かしていきたいと考えていますか。

長谷川 ドイツ史を研究テーマにしたいと考えています。そのため帰国後にドイツ語の検定試験にも合格しました。ナチスによるホロコーストなど、第二次世界大戦で犯した罪に対してドイツ人がどのように向き合ってきたのか、自分なりの視点で研究したいと思います。

門田 EUキャンパスプログラムで多様な文化と価値観に触れ、日本やアジアを相対的に捉えられるようになりました。ヨーロッパへの留学経験を生かし、幅広いテーマでアジア太平洋地域の可能性を探究できればと考えています。

岡本 こうしてお二人の言葉を聞いて、やはりEUキャンパスプログラムは、学部や専攻を問わず学生たちにとって実りある体験になるのだと確信しました。自分の学生時代にも、こんな魅力的な留学プログラムがあったら……と羨ましく思います。

穂山 EUキャンパスプログラムはチュービンゲン大学の教員と協議を重ね、参加者のアンケートをもとに、毎年内容の改善を図っています。「日本を外から見る」という貴重な体験にもなるので、ぜひ多くの学生にチャレンジしてほしいです。

